

表1

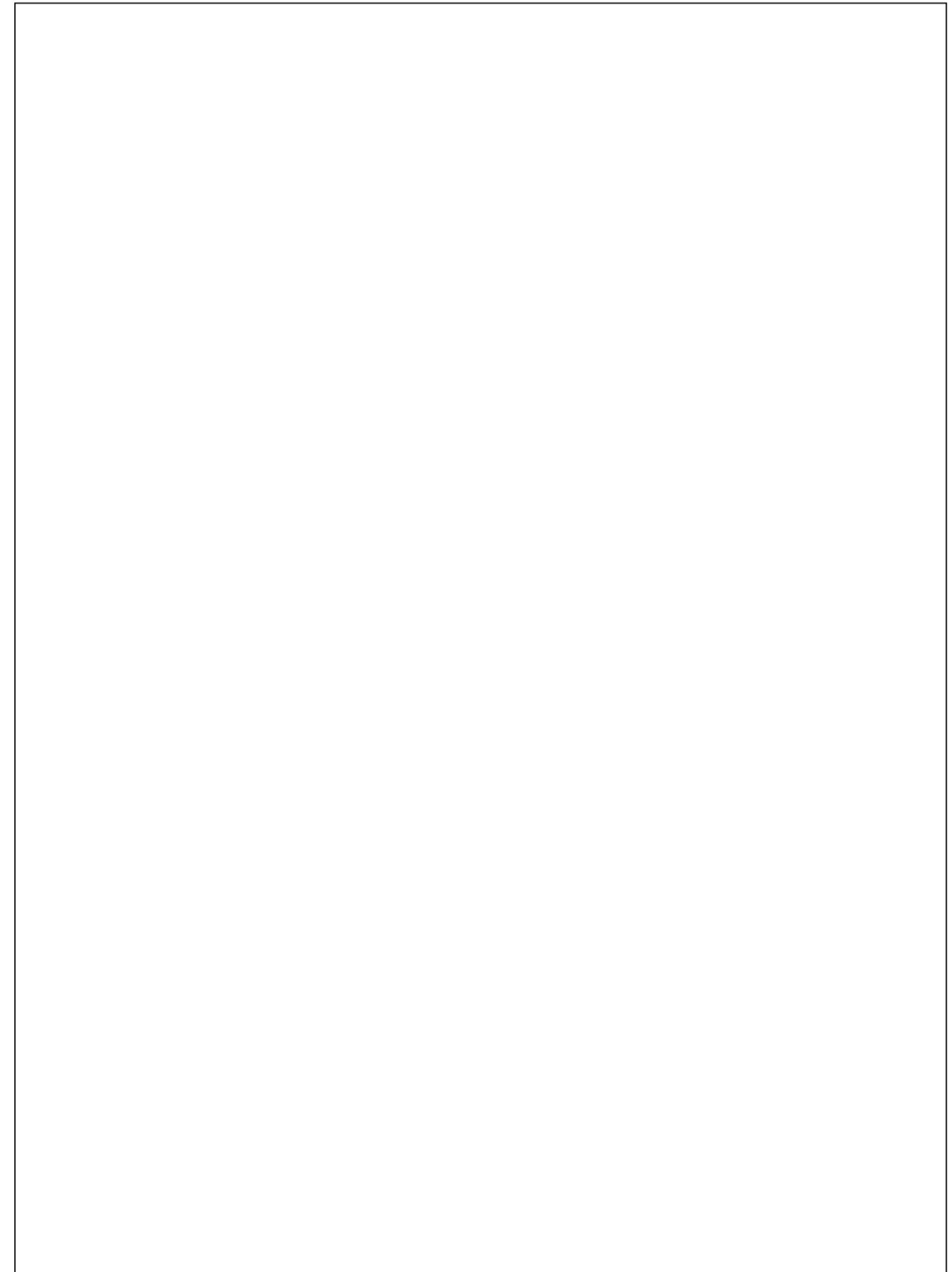
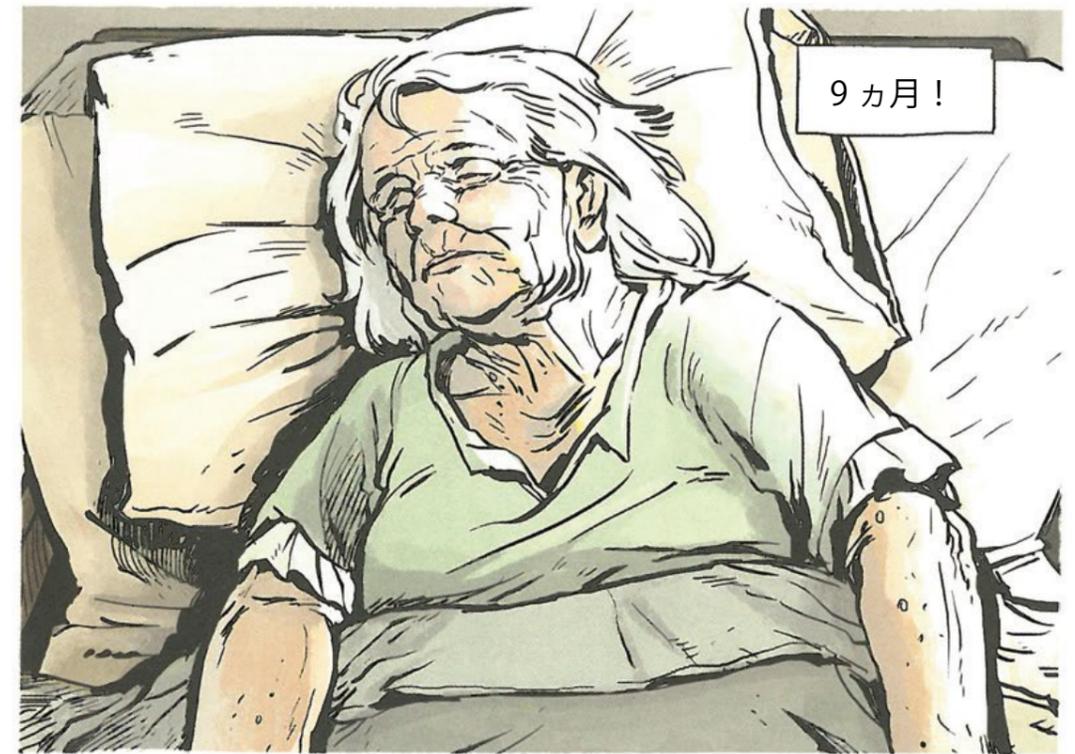
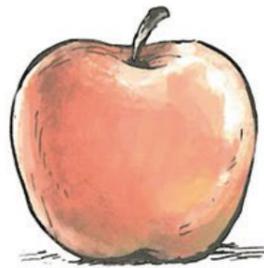


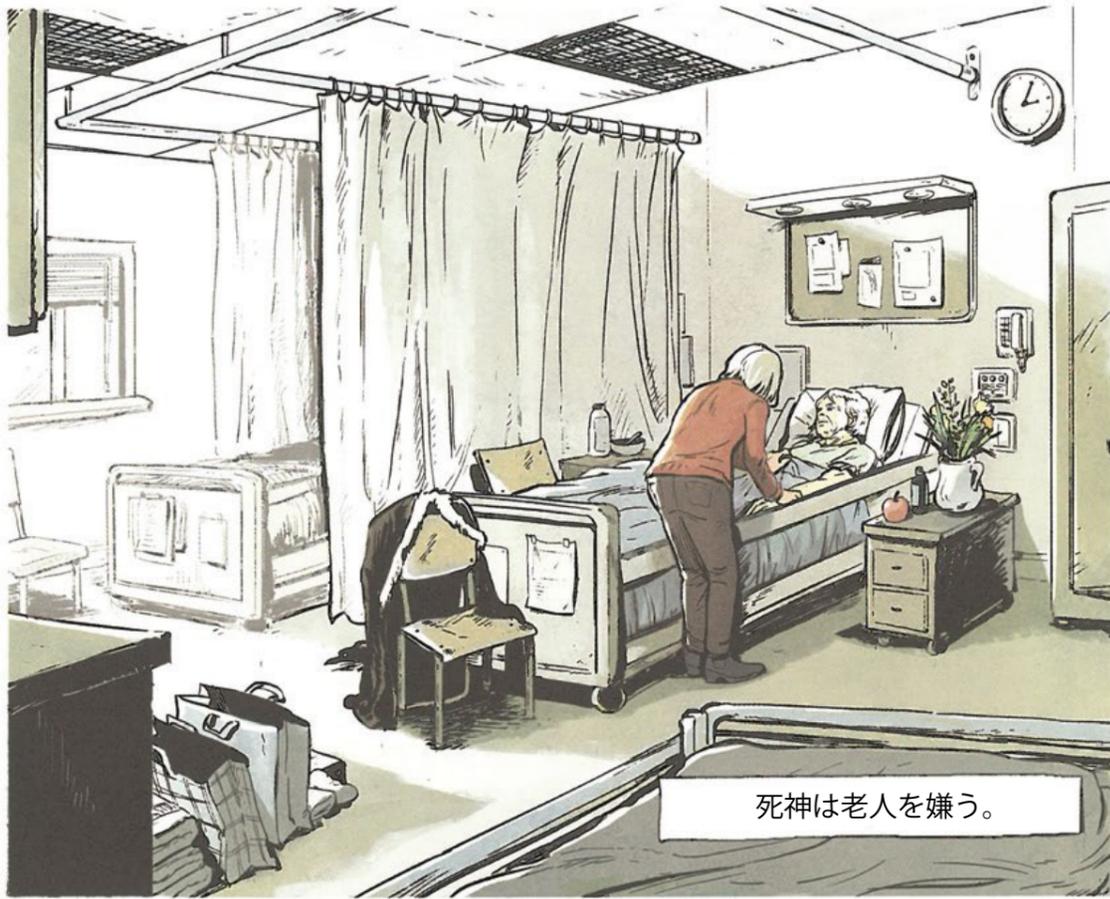
表2

1.

*l'ennemie dans la glace*

鏡の中の敵





死神は老人を嫌う。



えぐい匂い、ざらざらした肌、夢を見尽した擦り切れた視線、殴られた犬のような背中…。死神はそれを嫌うのだ。



誰がなんと言おうと、死神は若者の方が好きなのだ。



死神はクーガー（訳注：若い男を好む熟年女性）なのだ。



姉さんはできることは全部した。いやそれ以上のことをしたよ。



姉さんさえよけりゃ、葬式や教会の手配とか、後のことは僕にまかせてくれよ。親戚への連絡も。



そう、親戚のうち残っている人たちに。

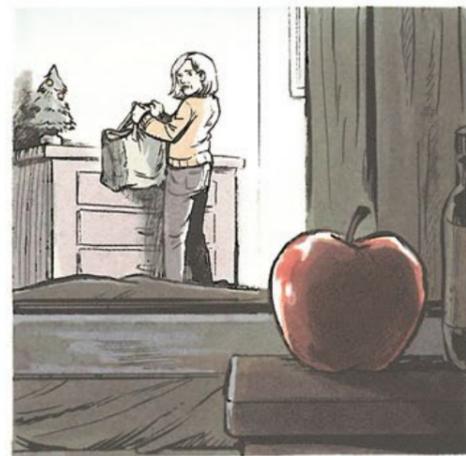


数ヶ月の間、母の死ばかり願ってた。もう苦しむ姿を見なくて済むのだ。もううめき声を聞かなくて済むのだ。



でも、もうすでに、母の何もかもが懐かしい。

うめき声までもが。



メディテラネ (訳注: ここでは女性の名前だが、フランス語で「地中海」という意味) 姉さん、まだ実感がわかないんだけどさ...



ソレンザ家では姉さんが一番上になってしまったね。



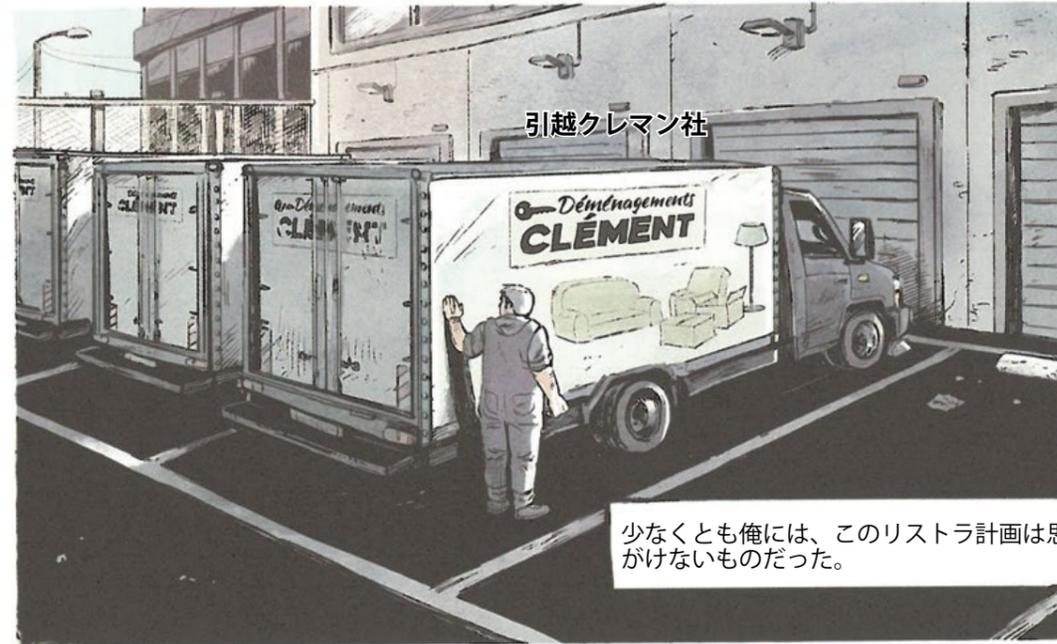
ふん、これが定年か。



この虚しさが。



さらば。俺の船よ。



引越クレマン社

少なくとも俺には、このリストラ計画は思いがけないものだった。



この頃じゃ引越しをする人間が減り、引越すにしても近くが多い。



それに、自分でトラックや軽トラを借りて、友達に手伝ってもらう方がいいときてる。業界の危機ってやつさ。



ユリス、仕方なかったんだ。ほかの連中は学校に通う子供がいたり、ローンが残ってたり…。

フレッド、そのセリフはもう聞き飽きた！ 要は奴らが俺より20才は若いってことだろ！



だから、俺はリストラされたんだろ！